

妊産褥婦および乳幼児のメンタルヘルスシステム作りに関する研究

「助産婦教育における母子精神保健教育のあり方の研究」

谷口 初美 佐賀医科大学医学部臨床看護学講座

研究要旨

助産婦教育における産後の精神機能障害に関する教材（マルチメディアを用いた）の効果と意義

A．研究目的

女性の生涯において産後 1 ヶ月間は、精神疾患および精神科入院の頻度が他に時期に比べ著明に高く、最も注意を及ぼす時期である。しかし、妊産褥婦のみでなく産科スタッフ間でもあいまいな知識を持っているに過ぎないのが現状である。出産にかかわる精神障害は、母親のみでなく、その後の母子関係にまで大きく影響を及ぼすことが問題とされている。この意味でも、周産期に直接関わる産科スタッフが周産期の精神機能障害について熟知することは重要である。しかし、現存の助産婦教育カリキュラムにおいてもメンタルヘルスに関する教育は十分行われていなく、しかも産後の精神機能障害に関する適切な教材は数少ない。そこで、助産婦学生のモチベーションを向上させ教育効果をねらうためにマルチメディアを用いて産後の精神機能障害に関する適切な教材開発を試みることにした。そして、その教材に対する教育効果を判定し、今後の教材作製に反映させたい。この研究は、産科スタッフの産後のメンタルヘルスに関する教育レベルの向上をめざすことである。このことは、妊産褥婦や家族の健全な家庭を築くことへの支援に大いに貢献することとなる。

B．研究方法

1) 教材作製に関し

概存の産後の精神障害に関する文献・教育ビデオの検索をし、より助産学生に理解しやすく学習に対してモチベーションを向上できる方法を見出す。現在マルチメディアによる学習のモチベーションを高める方法が多く研究されている。SCS（衛星放送）からコンピューターを用いたインターネットによる方法、ビデオに至るまでいろいろな方法がある。それぞれの長所短所を考慮し学生が場所や機種等に制限がなく使いやすく学習できる手段として、本研究においては、ビデオによる教材と学習内容を強化するためのテキスト作製をまづ行うこととした。

教材作り

- ・産後の精神障害に関するテキスト（助産婦・学生用）を編集・作製。
- ・産後の精神障害に関する教育ビデオの構成・作製。

1. 1) 産後の精神障害に関するテキスト（助産婦・学生用）を編集・作製に関し
産後のマタニティーブルーズ、産後うつ病、産後精神病をテーマとし、その鑑別しやすいように各疾患別に原因、頻度、徴候、判定基準、考慮するポイント、看護に関しては NAACOG (the Nurses' Association of the American College of Obstetricians and Gynecologists) をもとにアセスメント、看護診断、看護介入、患者教育を記載し、stein のマタニティーブルーズ自己質

問票（岡野訳）,coc,etal のエジンバラ産後うつ病調査表（岡野訳）を載せた。

1.2) 産後の精神障害に関する教育ビデオの構成・作製に関して

全2巻とし、各15分の教育ビデオとする。

第1巻は産後のマタニティブルーズ、産後うつ病、産後精神病の鑑別の医学知識や看護ケアとし、第2巻は臨床編としてカウンセリング技術の実際を計画している。

教育ビデオ作製の完成を平成11年7月中にし、ビデオの完成後、助産婦学生を対象にこれらの教育効果を評価するための研究に進む予定である。

2) 産後の精神機能障害のビデオ教材・テキストの効果についての研究

方法：本教材で産後の精神機能障害の教育を受けていない学生の臨床実習前・後の反応と臨床実習前に本教材で学習した学生の臨床実習前・後の反応を対比しその効果を評価する。

効果判定として産後の精神障害についての新たな認識を持つことにより産後のケアに関して観察・介入・指導面の看護ケアに差異が生じるのかを評価するために、アンケート用紙を用いて臨床前後学生の認識レベルをチェックと臨床時の学生の看護記録やカンファレンスから情報収集をする。

また、卒後の追跡調査として卒業後6ヶ月後にアンケートを用いて学生時の学習が実際の臨床の場で役に立っているかの判定を行う。この事は、学習の時期（Readiness）や次回の教育ビデオ作製に大いに参考になると思われる。

c. 研究結果

はじめの1年間で内外の文献検索をし、諸先生方のご指導の下に本研究の研究デザインを立案し、それに伴う教材の開発としてテキストの原稿とビデオ作製のための構成、シナリオの原

稿にまで及ぶことができた。

D. 考察

次の段階としては学習効果の高いビデオ作製に取り組む予定である。ビデオ作製にあたっては情景を映像で入れながら医学知識・看護をどのように取り入れていけばよいか学生の理解力を支援できるようなビデオ作製に取り組みたい。産後の精神機能障害の教材が整えば、助産婦学生の教育に使用しその結果を評価して教育効果の有無を検討したい。

E. 結論

学習に有効な時期に、適切な教材を用いることで学生の教育効果が向上することとなれば、学習効果は高い。本研究の結果、産後の精神機能障害をより早期に発見し適切なケアを提供することも可能である。そればかりか妊産褥婦の心のケアに今以上に助産婦が関与することとなろう。今まで自己流で体験的にそれとなく行ってきていた心にケアを学問的にトレーニングを受けて妊産褥婦の心のケアを行うことができれば、臨床経験の長短に関係なく適切なケアを提供することができるにちがいない。つまり、今までにない分野の知識・技術を助産婦教育の中に取り入れ助産婦教育の幅を広げること、より豊かな助産婦を育成することとなる。そのためにも助産婦教育カリキュラムに「産後の精神機能障害」に関する医学知識と看護の導入は必須であり、そのためにも本研究の意義は高い。

F. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 谷口初美：NI'97 ストックホルム国際看護情報学会で見聞したこれからの医療情報。周産期医学、July 1998 vol.28 No.7 pp 889-892.

- 2) 谷口初美、小北良子、大津明美、松山敏剛、高崎光浩：周産期看護ケア支援システム構築についての試案。日本医療情報学会第14回看護情報システム研究講演集，77-80, 1998.
 - 3) 谷口初美：ハワイ大学の遠隔授業...体験を通じて。研究報告 高等教育におけるメディア活用と教員の教授能力開発 内外の事例研究と関連基礎分野レビュー、NIME メディア教育開発センター。101-107, 1998.
 - 4) 谷口初美、小北良子、大津明美、松山敏剛、高崎光浩、内田郁美、石山さゆり、中尾優子、安達耕子：周産期看護ケア支援システムの導入インターネット上の構築を試みて。第18回医療情報学連合大会論文集、430-431, 1998.
 - 5) 谷口初美、小北良子、大津明美、松山敏剛：異文化と日米の医療環境の相異の中で出産した日本女性の実態調査（ハワイ州にて）。母性衛生 39(4), 356-363, 1998.
 - 6) 島田三恵子、谷口初美：米国看護助産婦の合法的業務と実践業務の比較。母性衛生 39(4), 411-416, 1998.
 - 7) 谷口初美、松山敏剛、野中房子、東島ゆりか、川原照美：母親の生活パターンにみる低出生体重児出産の現況。周産期医学 29(1), 121-125, 1999.
2. 学会発表
- 1) 大津明美、谷口初美、小北良子、松山敏剛、竹の上ケイ子：学生のエゴグラムパターン分析による母性看護実習の検討。第38回日本母性衛生学会学術集会。1997,10月。
 - 2) 谷口初美、松山敏剛：看護学教育にプレゼンテーションソフトを利用した授業方法の改善と教育効果の研究。第17回医療情報学連合大会、1997年11月。
 - 3) 谷口初美、小北良子、大津明美、松山敏剛、高崎光浩：周産期看護ケア支援システム構築についての試案。日本医療情報学会第14回看護情報システム研究。1998年6月27日。
 - 4) 谷口初美、小北良子、大津明美、松山敏剛、高崎光浩、内田郁美、石山さゆり、中尾優子、安達耕子：周産期看護ケア支援システムの導入インターネット上の構築を試みて。第18回医療情報学連合大会。1998年11月20日。
 - 5) 谷口初美、小北良子、大津明美、松山敏剛：異文化の中で妊娠を迎えた日本女性のコーピング。第39回日本母性衛生学会学術集会。1998年10月2日。
 - 6) 野中房子、東島ゆりか、川原照美、清川俊彦、山口正恵、中村邦子、片藤義明、田崎義博、益本義久、林暁生、井手洋二郎、谷口初美：伊万里保健所管轄下における低出生体重児の実態調査。第2回佐賀母性衛生学会学術集会。1998年7月4日。
 - 7) 石井保代、松山敏剛、谷口初美：一般中年女性の更年期症状とコーピングの実態調査から。日本更年期医学学会。1998年12月5日。
- G. 知的所有権の取得状況
なし